

## 日本結核病学会中国四国支部学会

### —— 第10回研究会 ——

平成28年12月22日 於 ダイワロイネットホテル岡山駅前（岡山市）

支部長 磯部 威（島根大学医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学）

### —— 特別講演 ——

IGRAs 陽性の場合、どうしますか？

演者：沖本 二郎（川崎医科大学総合内科学1教室）

座長：阿部 聖裕（国立病院機構愛媛医療センター呼吸器科）

- |   |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| <p>(1) 雇入れ時に陽性であった場合どうしますか？<br/>概ね2年以内に感染したと思われる場合に潜在性結核感染治療対象とする。</p> <p>(2) 接触者健診で陽性であった場合どうしますか？</p> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;"> <p>a. 雇入れ時に陰性であった者</p> <p>b. 過去の IGRAs が不明かつ結核の治療歴のない者</p> </td> <td style="border: none; padding-left: 10px;"> <p style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</p> <p>潜在性結核感染治療対象とする</p> </td> </tr> </table> | <p>a. 雇入れ時に陰性であった者</p> <p>b. 過去の IGRAs が不明かつ結核の治療歴のない者</p>                     | <p style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</p> <p>潜在性結核感染治療対象とする</p> | <p>(3) 一般診療で陽性であった場合<br/>胸部 X 線，胸部 CT 撮影，くり返す喀痰検査<br/>→ 活動性結核がない場合，2年間経過観察</p> <p>(4) QFT を検査するの？ T-SPOT を検査するの？</p> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;"> <p>a. 活動性結核では差がなし</p> <p>b. 接触者健診では QFT の感度が高い</p> </td> </tr> </table> | <p>a. 活動性結核では差がなし</p> <p>b. 接触者健診では QFT の感度が高い</p> |
| <p>a. 雇入れ時に陰性であった者</p> <p>b. 過去の IGRAs が不明かつ結核の治療歴のない者</p>  | <p style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</p> <p>潜在性結核感染治療対象とする</p> |  |  |  |
| <p>a. 活動性結核では差がなし</p> <p>b. 接触者健診では QFT の感度が高い</p>  |  |  |  |  |

### —— 特別報告 ——

#### 非結核性抗酸菌症患者増悪に関わる宿主因子の検討

°佐野千晶<sup>1</sup>，多田納豊<sup>3</sup>，森 雄亮<sup>2</sup>，堀田尚誠<sup>2</sup>，津端由佳里<sup>2</sup>，濱口俊一<sup>2</sup>，  
濱口 愛<sup>2</sup>，沖本民生<sup>2</sup>，竹山博泰<sup>2</sup>，富岡治明<sup>4</sup>，磯部 威<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>島根大学医学部地域医療支援学，<sup>2</sup>同内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学，  
<sup>3</sup>国際医療福祉大学薬学部薬学科，<sup>4</sup>安田女子大学教育学部児童教育学科）

*Mycobacterium avium* complex (MAC) は結核と比較して病原性が弱いものの，肺 MAC 症の患者数の増加が報告され，本邦は世界的にみても罹患率が高い状況が継続している。肺 MAC 症の増悪を規定する因子について，菌側の因子以上に宿主因子の関与が大きいことを示唆する論文が散見される。さらに，閉経後の中老年女性，やせ，慢性閉塞性肺疾患の合併などが肺 MAC 症の危険因子として考えられている。また近年，抗酸菌感染症の病態形成への，抗酸菌感染によって誘導された抗 IFN- $\gamma$  自己抗体の影響（nature medicine. 2016; 22(9)）や，マクロファージのポラリゼーションとの関与，宿主の特定の SNP との関与についての研究が進められている。

肺 MAC 症が今後増悪するのかもしれないのかといった病

勢を予測するマーカーの構築に向けて昨年度より検討を進めている。細胞性免疫と関わるサイトカイン・ケモカインや体重，栄養状態などの多因子をスコア化した重症度マーカーを目指している。日本結核病学会中四国支部会における多施設共同での，ヒト血清検体を用いた臨床研究である。具体的には，肺 MAC 症患者からの血清を用いたサイトカイン・ケモカインプロファイル解析，脂質代謝物のメタボミクス解析といった網羅解析ならびに，こういった血清の解析とリンクさせた臨床背景，画像の解析を行う。

今回は，最近の肺 MAC 症に関する基礎的知見ならびに研究の進捗についてご説明させていただき，中国四国支部会の先生方との共同研究をお願いしたい。